
NEWS RELEASE (2026 年 7 月 16 日) 取材依頼

鹿児島県海域における漁場予測技術を開発

鹿児島大学と鹿児島県の官学による共同研究の成果発表

報道機関 各位

鹿児島大学水産学部、同理工学研究科、鹿児島県水産技術開発センターは、漁船漁業のスマート化による操業の効率化・漁家経営の安定化を図るため、鹿児島県海域における漁場予測技術の開発を行っています。この共同研究において、世界的にも高解像な漁場予測技術の開発に成功するとともに、予測結果を漁業者へ web 上で配信する操業支援ツールの提供を開始しました。

その成果を記者発表にて広く一般に公表いたしますので、ぜひ取材へお越しく下さい。

— 記者発表の概要 —

【日時】 2026年7月27日(月) 10時 00 分～(1時間半程度) ※9時 30 分から入室可

【場所】 鹿児島大学 水産学部1号館 2F 大会議室

【プログラム】 1)研究概要

中村啓彦 (水産学部)

湯ノ口亮 (水技センター)

2)海況予報

加古真一郎 (理工学研究科)

3)ゴマサバ漁場予測

堤英輔 (水産学部)

4)流れ藻漂流予測

堤英輔 (水産学部)

5)操業支援ツールと将来展開

小針統 (水産学部)

6)質疑応答

※開発技術の概要は、別紙資料をご参照ください。

※当日の記者発表場での取材以外に、事前に予備取材も受け付けます。

お問い合わせ先(研究・成果に関すること)担当者までご連絡ください。

【問い合わせ先】

(研究・成果に関すること)

鹿児島大学水産学部 教授 中村啓彦(なかむら ひろひこ)共同研究マネージメント担当
TEL:099-286-4100 E-mail:nakamura@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島県水産技術開発センター資源管理部 主任研究員 湯ノ口 亮(ゆのくち まこと)
TEL:0993-27-9212 E-mail:suigi-shigen@pref.kagoshima.lg.jp

(記者発表への参加申し込み先)

鹿児島大学水産学部 総務係
TEL:099-286-4111 E-mail:fsomu@kuas.kagoshima-u.ac.jp

(広報に関すること)

鹿児島大学広報センター
TEL:099-285-7035 E-mail:sbunsho@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島県海域における漁場予測技術を開発

鹿児島大学と鹿児島県の官学による共同研究

研究概要 鹿児島県は、漁獲から消費までの全工程のデジタル化を推進することにより、水産業のスマート化とそれによる活性化を目指している。このスマート化事業に関して、R5～7年度、水産学部・理工学研究科と水技センターにより、**官学共同研究**「鹿児島県海域における漁場予測技術の開発」を実施し、鹿児島県海域を対象として、高精度の海況予報モデルを利用した漁場予測技術を開発した。この共同研究における鹿児島大学と水技センターの役割分担は、[図1](#)のとおりである。

開発技術 現時点で、1) 鹿児島県海域の**海況予報モデル**を開発し運用している。さらに、この海況予報モデルの予測値に基づいて、2) AIモデルを用いてゴマサバの漁場を予測するシステム、3) AIモデルを用いて人工衛星画像より視認した流れ藻群の漂流を予測するシステムの開発に成功した。さらに、これらの予測結果を漁業者へ配信するためのWEB上の統合的な**操業支援ツール**を開発し、漁業者への試験的な情報提供を開始した([図2①と②参照](#))。開発技術は、漁業者から提供される水温・塩分データを海況予報モデルに反映させるなど、**漁業者との協働作業**で成り立つシステムである特徴をもつ。

将来展開 今後、利用率の向上を目指して、技術開発を継続しつつ操業支援ツールの経済効果に関する検証を実施する。技術開発では、共同研究で開発した海況予報モデルの持続的改良、流れ藻漂流予測モデルの全自動化、ゴマサバのAI漁場予測モデルの新魚種(ゴマサバ同様にまき網で漁獲されるアジや資源回復が顕著なイワシ、南西諸島漁業の主要魚種のソデイカ等)への拡張を図る。また、情報提供の側面では、漁場予測情報の利用方法に関する漁業者への普及活動を行う。

開発関連経費一覧(鹿児島大学と鹿児島県関連の経費のみ記載)

- ・R4～9年度 鹿大ミッション戦略経費「奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル」
- ・R5年度 鹿大経営戦略経費「鹿児島大学のフィールド施設を利用したモジャコ漁スマート化システム開発」
- ・R5～7年度 水産技術開発センター・鹿大共同研究費「鹿児島県海域における漁場予測技術の開発」
- ・R8年度 水産技術開発センター・鹿大共同研究費「海況・漁場予報を活用した漁船漁業スマート化」
- ・R8年度 鹿大経営戦略経費「学生と協働して行う漁船漁業のスマート化技術開発と実装化」

図1 共同研究における各機関の主な役割について

県水技C

※県事業「ICTを活用したスマート漁船漁業実装化事業」
(予算額15,845千円) による取組

1 現場データの収集

(1) 海況予報精度の向上に向けた水温、塩分、潮流データ

漁業者、県調査船 計24者による海洋観測を行う

(2) 漁場予報技術の開発に向けた漁場別水揚データ

県内主要4港（枕崎、阿久根、内之浦、山川）を中心とした、日別・漁場別水揚データを収集する

2 県内漁業者との連携

操業支援ツールの普及、利用促進

漁業者集会等でのPRや、
利用者フィードバックの収集



鹿大理工

1 海況予報精度の向上

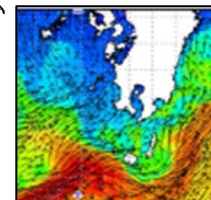
(1) 現場データのモデルへの同化

(2) モデル計算の見直し等

→漁場予報の大元となる海況予報精度の向上を図る

2 流れ藻漂流予報システムの開発

人工衛星画像から流れ藻位置を確認し、粒子追跡モデルにより漂流を予報するシステムを開発する（AIを活用し、これらを全自動で処理）



鹿大水産

1 漁場予報技術の開発

(1) 予報対象魚種の拡充

AIを活用したゴマサバ漁場予報について、新魚種への横展開を図る（ゴマサバ同様にまき網で漁獲されるアジやイワシ、南西諸島漁業で主要な魚種となるソデイカ等）

(2) モジャコ（流れ藻）、ゴマサバ漁場予報の改良

これまでに開発したモジャコ、ゴマサバ漁場予報の改良を図る

2 操業支援ツールの開発、情報発信

各種予報結果を統合的にWEB上で配信する操業支援ツールを開発し、
漁業者向けに情報発信する（別紙参照）

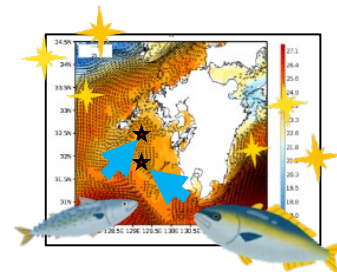


図 2

①

鹿児島大学水産学部 水圏科学分野
浮魚類漁業支援ツール

プロジェクトについて メンバー 関連リンク **ゴマサバ予測** ●●予測

浮魚類漁業支援ツール・ホームページ
<https://uki.fish.kagoshima-u.ac.jp/>

県水技センターとの共同研究(R5-7年度)でプロトタイプを作成済. 今後, ツールの拡充と漁業者への普及を図る.

漁海況マップ
鹿児島湾

漁海況マップ
薩南海域

ゴマサバ予測

●●予測

理工学研究科が担当: 鹿児島湾と薩南海域の海況予報モデルを持続的に高精度化して情報発信.

水産学部が担当: AIによるゴマサバ漁場予測モデルを開発して情報発信. R8年度以降, 新魚種(イワシ, アジ, ソデイカなど)に拡張.

<https://sb.oce.kagoshima-u.ac.jp>

図 2

②

鹿児島大学水産学部
水圏科学分野
Aquatic Sciences Faculty of Fisheries, Kagoshima University

プロジェクトについて メンバー 関連リンク **流れ藻マップ** **流れ藻予測モデル** **流れ藻観測速報**

モジャコ漁スマート化支援ツール・ホームページ
<https://nagaremo.fish.kagoshima-u.ac.jp/>

流れ藻漂流予測: 人工衛星(Sentinel-2)の画像解析から抽出された流れ藻群の位置を基に, 海流と波の影響で7日先の流れ藻の位置を予測.

操業前にマップで確認! モジャコ漁場を予測

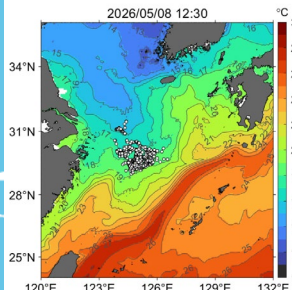
流れ藻マップ

みんなが利用すると
どんどん
情報価値が
高まります!

**流れ藻
人工衛星画像**

**流れ藻
予測モデル**

5月上旬の流れ藻分布から予測
2026/05/08 12:30



※水技センターHPトップページにもリンク掲載